

## ラバル大学訪問研修

安達 太郎

9月9日（水）

日本からケベックに向けて出発！  
トロントで一度乗り換えてケベックへ。  
合計15時間ほどの長い飛行機の旅でした。  
ケベックに着いたのは、現地時刻の午後9時でした。



ケベックの空港の様子

9月10日（木）

午前にラバル大学を訪問しました。  
学部長のベレガード先生から歓迎の言葉をいただき、  
ラバル大学の学生さんに学内を案内してもらいました。  
森林科学科の棟は、木材が多く使用されており、  
とても暖かな雰囲気でした。  
午後はケベック市街を散策しました。



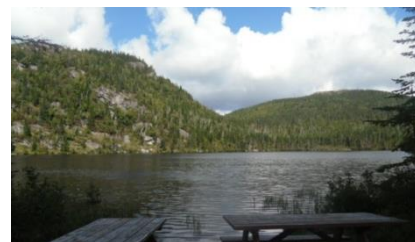
森林科学科の廊下



ケベック市街の様子

9月11日（金）

グランジャルダン国立公園に行きました。  
日本とは違う景色にみんな興味津々！  
歩いているときも足を止めて写真を撮ったり、植物やキノコを指して名前を聞いたりしました。  
山道を登るのは少し大変でしたが、そこから見える景色を楽しみながら歩きました。  
午後はシャルルボア マリタイム博物館に行きました。  
その地域の造船の歴史と木材の関係について、解説をしていただきました。



公園内にある湖（上）



博物館に残る船  
（左）

9月12日（土）

ベ＝サント＝カトリーヌに行き、ホエールウォッチングをしました。

ブルーガやペンギン、アザラシ、そしてクジラを見ることができました！

午後はタドサックに行き、砂丘や町を歩きました。

砂丘はセントローレンス川に面しており、急斜面の砂丘を降りていくと川のほとりまで行きました。



船から見えたクジラ



タドサックの砂丘

9月13日（日）

サグネフィヨルド国立公園に行きました。

サグネ川に面した尾根部に出るとフィヨルド地形やアカマツが見られました。

この川ではかつてブルーガがたくさん生息していたそうですが、人の乱獲により個体数が激減したそうです。

午後はモーリン デス パイオニアーズに行きました。

ここでは、数十年前まで行われていた水力を利用した製材工場が保存されており、その時の製材の方法を実演してもらいました。



公園内の展望台



製材工場の様子

9月14日（月）

森林作業の現場を視察しました。

ケベックでは高性能林業機械の普及が進んでおり、今回はハーベスタによる伐採の様子を見学しました。

林道や材を運ぶトラックがとても大きく、日本とのスケールの違いを感じました。

その後、搬出間伐前の林地の様子や山火事後の植生回復の様子、植林後の林地の様子など、条件が異なる様々な林地を見学しました。



現場の様子



土場の様子



山火事後の林地の様子



伐採後の植生回復の様子



林業機械が通った跡の様子

9月15日（火）

製材工場を見学しました。

この工場では、スプルースを主に製材していました。製材された材は長さにより分類されていました。製材の過程で発生したチップやソーダストもきちんと分類して出荷しているとのことでした。

午後はブルーベリーフォレストを見学しました。

ここでは、ブルーベリーの生産と林業を一緒にしており、地域密着の森林を目指しているとのことでした。景観や生物多様性において、この方法は良い方法ですが、採算性が悪くなるという欠点があり、あまり広がらなかったとのことでした。



工場内の様子



ブルーベリーフォレスト

9月16日（水）

ジャックカルティエ国立公園に行きました。

はじめはイエローバーチが見られ、ある標高まで上がるとホワイトバーチがそれに代わっていくという、森林の垂直分布を見ることができました。

午後はモンモランシーにあるラバル大学の演習林に行きました。

演習林の職員さんにカリブーが見られるポイントを案内していただきました。カリブーは人の気配を察知するので静かに観察をしました。左の写真の時は、遠くにいてははっきりと見ることはできませんでしたが、最後の最後でかなり間近に見ることができました！



公園の林内の様子



カリブーを観察中

9月17日（木）

演習林を歩きながらラバル大学の先生方が自分の研究内容について紹介してくださいました。

研究内容として、渡り鳥の個体数と林業との関係、カワウソやヘラジカなどの動物と林業および積雪量との関係、酸性雨と土壌およびそこに生育する樹木について、地球温暖化の影響による土壌の温度上昇と土壌への影響についてなどを紹介していただきました。

夜はラバル大学の学生さんと一緒に夕食を食べて、キャンプファイヤーを囲みながら色々な話をしました！



演習林内の湖



先生による研究紹介の様子

9月18日（金）

演習林からケベック空港へ移動。

空港でこの研修中ずっとつきっきりで案内をしてくださったラバル大学の先生方と別れの挨拶を交わし、名残惜しい気持ちを残しつつケベックを後にしました。

日本への長い空の旅で思うことは人それぞれだったと思います。

でも、この研修を通して、これまで自分が学んできたことやこれからどんなことを学びたいのかを見つめ直したり、考えるきっかけとなったのは、研修に行った全員にあてはまるのではないのでしょうか。

今後もこのような研修が続くことを祈ります。



空港に向けて出発



飛行機から見たケベック